

ドッジボールニュース

Vol. 4

2015.12

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



全日本3連覇! 目指すは魅せるドッジ

(ゴテンクス)

9月13日、神奈川県小田原アリーナで行われた2015 J.D.B.A. 全日本選手権。過去2回とも頂点に君臨したゴテンクスは、今回も他チームの頂点への挑戦を打ち砕きました。その強さの秘訣を平野代表に伺いました。

「ゴテンクス」というチーム名は、国民的アニメ・ドラゴンボールのキャラクターに由来しています。本題から少し逸れますが簡単に説明をすると、『フュージョン』という合体技によりゴテンクスというキャラクターに変身し、強敵に立ち向かうというものです。

このチームも普段は3つのチームに分かれて活動していますが、全日本選手権に向けて合体され、ゴテンクスという編成になります。そのため、定期的な練習はなく、大会前の12か月前より2週間に1回程度の練習や試合を経て、シニアチャンピオンシップ(予選大会)、全日本選手権本選に臨んでいます。

普段からそれぞれが練習を積んでいるとはいえ、組織力が求められるドッジボール。特にシニアカテゴリーは技術力だけでなく、試合中の雰囲気の結果に影響することもあります。少ない練習時間でどのようにチームとしての組織力を構築しているのでしょうか? 平野代表からは「選手同士の仲の良さは当然ですが、今回の全日本選

手権を迎えるにあたり『絶対に3連覇をする』という強い意志を選手全員を共有しています。それと、短時間ですが密度の濃い練習ができたことが一番大きいですね」という答えが返ってきました。



一人ひとりの「確かな技術力」、そして「強い意志」がゴテンクスに3連覇をもたらしたのです。その証拠として、2014アジアカップ日本代表には、ゴテンクスから4人もの選手が招集されています。平野代表が「他の選手も来年のアジアカップ入りを目指し、日々練習に取り組んでいます」と言うように、ゴテンクスはまだ進化途中のチームなのです。

もう一度、ドラゴンボールに話を戻すと、ゴテンクスというキャラクターは強敵は倒したものの、実は最強の戦士ではありませんでした。どんな物語でも上には上がいる、ということでしょう。全日本選手権も3回目が終わりましたが、全国各地で定期的に練習を行うチームが増えているようです。練習機会の少ないゴテンクスにとり、脅威となる最強の戦士は現れるのでしょうか?

最後に今後の目標を伺いました。「もっと魅せるドッジを目指したい。もっと早いパス回しをし、ミスが少なく、見ている人々に『カッコいい』と言われる

ようなドッジをして、できることなら全日本選手権4連覇を目指したいですね」

実は全日本選手権3連覇というのは序章でしかなく、ここからがシニアドッジボールという物語の盛り上がりをみせるシーンなのかもしれません。



**熱いぞ！
ドッジボール**

ドッジボールの新しいカタチが 日本のスポーツ界を盛り上げる!!

2020年の東京オリンピック・パラリンピックが近づくにつれ、国民のスポーツに対する関心は高まり、スポーツに触れる機会が増えるのは間違いありません。

ドッジボールも気軽に始められるスポーツとして、JDBAとしても準備を始めたいところです。

そうした中、新しいドッジボールへの関わり方が生まれています。

これからの展開が楽しみな2つのケースを紹介します。

[新しいカタチ1] 首都圏に続々登場！大学ドッジボールサークル

今、首都圏の大学でドッジボールサークルが設立され始めています。ドッジボールを通じた交流だけでなく、都道府県協会主催の競技会にも参加し、全日本選手権出場チームをも相手に善戦を繰り広げています。

● 青山学院大学ドッジボール愛好会 Galopin (ガロパン)

所属人数 約70名／男女比 1:1 / JDBAルール経験者 30名

Galopinはフランス語で“わんぱく小僧”という意味。ドッジボールはやっているとなんとなく夢中になれ、童心に返らせてくれることから命名。元々、他のスポーツサークルに入りたかったが、人数の兼ね合いで入れず、「何かおもしろいサークルを作りたい」ということをきっかけに設立。

- ・競技ドッジボールの上達(目標は大会上位入賞)と、レクリエーションとして楽しむこと。
- ・ドッジボールの認知度を広める／シニアへの普及。
- ・都内での活動場所を確保する。

● 東大ドッジボールサークル VOLER (ヴォレ)

所属人数 約50名／男女比 2:3 / JDBAルール経験者 10名

VOLERはフランス語で“飛ぶ”という意味。ドッジボールをしてボールが飛ぶ、そして大学間の垣根を飛び越えて交流するという思いを込めて命名。競技ドッジボールの経験者だった代表がたまたまTwitterでドッジボールオフ会のツイートをを見つけ、主催者と知り合ったことをきっかけに設立。

- ・より多くの大学生にドッジボールをする場を提供する。
- ・強豪クラブチームと戦える力をつけ、大会で良い成績を残す。

● 全早稲田ドッジボール連盟

所属人数 約48名／男女比 7:3 / JDBAルール経験者 5名

代表が入学前からずっとドッジボールサークルを探していたものの、早稲田大学にはドッジボールサークルがなかったことをきっかけに設立。

- ・小学校の休み時間にやっていたドッジボールをもう一度楽しむ。
- ・大会を目指すメンバーのサポート。
- ・ドッジボールを大人のスポーツとして楽しむ環境をつくる。



青山学院大学ドッジボール愛好会Galopinと、東大ドッジボールサークルVOLER



全早稲田ドッジボール連盟

[新しいカタチ2] 進行中！ビジネスパーソン向けドッジボールBIZ-DODGE

「サラリーマンの街」と呼ばれる東京都港区新橋界隈。その一画、JR新橋駅前に小学校施設を利用した「区立生涯学習センターばるーん」がありますが、校庭跡は公園として利用され定期的にイベントが開催されています。「ここでドッジボールができないかな?」。そんな思いつきから、ビジネスパーソンを対象としたドッジボール計画が始まりました。コードネーム「BIZ-DODGE」。わずかなスペースで、少人数で楽しめ、かつ短時間でもしっかりと汗を流せるドッジボールです。

そして2014年、首都圏ポスティング協会より、加盟企業の福利厚生事業としてドッジボール大会を行いたいとのご要望があり、BIZ-DODGEの方向性を軸に大会特別ルールを作成しました。今年度も大会が開催され、JDBAドッジボールの経験者も含む20代～50代の方約130名の方がドッジボールを一日楽しみました。

BIZ-DODGEはまだ開発途中ですが、十分楽しめるルールに育っています。この記事をお読みの方で企業の福利厚生事業や、地域のレクリエーション活動として興味をお持ちの方、可能な限り事業協力をさせていただきますので、JDBA事務局までお問い合わせください。



BIZ-DODGE

日本ドッジボール協会事務局には、皆様方から日々さまざまなお問い合わせやご意見が寄せられています。ドッジボールを愛される皆様だからこそ、想いやお気持ちが伝わってきます。そこで、今回からは各委員会を担当する理事の方々に、事業の内容やドッジボールに対する想いを綴ってもらいます。第2回は、日本代表事業も担当している総務担当理事・本田頼徳です。

OB・OGという有効な資産を活用して ドッジボール人口を増やそう!

総務委員長 本田頼徳



■注目度が高い日本代表事業

2012年度にドッジボール日本代表が発足し、現在は、16年に開催する「第3回アジアカップ」に向けて強化を行っている最中です。この日本代表事業は予想以上に波及効果があり、テレビや新聞からの問い合わせも多く、競技ドッジボールの認知度アップに貢献しています。今後は、本事業の一環として、小学生向けの普及事業の他、中高大生にもターゲットを広げ、トライアルキャンプなどを通じてシニア競技者全体の技術の向上・底上げを図っていきます。

■久しぶりのカラーコートに胸が踊った!

私がドッジボールの世界に戻って来たのはちょうど10年前、きっかけは初めてドッジボールを「観戦」したことです。1学年下の後輩が指導を続けるチームが全国大会に出場すると知り、軽い気持ちで応援に行ったところ、偶然、ドッジボールをやっていたところの後輩に再会。みんなドッジボールの面白さを忘れておらず、一緒に応援しているうちに、「上京しているOBで、もう一度ドッジを!」と話が盛り上がりました。小学校卒業と同時に出

身地を離れた私にとって、卒部後はドッジボールに触れる機会が全くありませんでした。しかし、十数年ぶりにカラーコートで繰り広げられる熱戦を見た瞬間、身も心も自然と熱くなったのです。

その後は情熱のおもむくままにシニアドッジボールに熱中。今から考えると、初めから趣味の枠を超えていました。横浜から往復2時間ほどかけて練習に参加し、年に数回開かれる東京・名古屋・岐阜での大会にも出場していました。現在でこそ、毎週・毎月、全国どこかで練習試合や大会が開かれていますが、当時は大会も数えるほどしかなく、もちろん全国大会もありませんでした。

そんな中、シニアのレベルは高くなる傾向にあるもののチーム数は増えず、今後選手の流入がなければチーム同士の合併が起こり、先細りしていくのではないかと考えるようになりました。その一方で、小学生の指導、シニア選手や審判の活動などを通じて各地を回るうちに、人とのつながりが増えていったのです。たった10年ですが、これまでの体験が糧となり、今の活動の根拠を支えています。

■ドッジボール人口の拡大に向けて

ドッジボール人口を増やすには、いかに参加しやすい環境をつくるかと、注目度を上げるためのPR戦略にかかっていると思います。チームや地域、都道府県協会、ブロック、日本協会と立場が異なるので、それぞれの特性やニーズに応じた取り組みが求められると思いますが、少なくともOBやOGが戻って来やすい環境を用意することが重要ではないでしょうか。

■受け皿～OB・OGを活用し好循環をつくる

OB・OGを活用して競技人口を増やす仕組みは、「横つながり」と「縦つながり」の2通り考えられます。「横つながり」は、今もドッジボールに携わっている人がかつての仲間を誘うパターン。「もう一度大会に出よう」と声を掛け、練習する仲間が増えれば、チームが活性化し

ます。もう一つの「縦つながり」は、OB・OGに後輩の練習への参加を呼び掛ける方法。後輩は先輩のプレーに憧れて応援するし、OB・OGはコーチや練習相手などチーム運営を支えてくれる“人財”として歓迎されることも多く、チームの活性化につながるケースも見られます。

このように若手が活躍する場、戻って来る受け皿が用意できれば、中高生・シニアの競技人口の拡大や指導者不足の解消、審判員数の増加も期待できるのではないのでしょうか。

■箱～大会運営上の工夫

大会の運営面では、①小学生と中高生、一般といった複数のカテゴリーを同時開催する、②年代別とし、中学生のみ、中高生のみで開催する、③U-16やU-19など従来とは異なるカテゴリーを採用する、④参加条件を出身チームの選手構成に限定する、といった工夫も考えられます。

受け皿や箱が充実してくれば、やがて新しいドッジボールチームが生まれるなど、競技人口全体の増加につながるはずです。

さらに今、ドッジボール人口増加の新たな切り札(?)として注目度が高いのが大学サークルです。大学サークルのメンバーは、何と半分以上がJDBAルール未経験者。彼らの話によると、競技ドッジをやりたい人とレクリエーションドッジで楽しみたい人では思いが違うため、練習方法が難しいとのこと。現在は関東一円での動きですが、これが他の地域の大学に波及していくかどうか……。まだ試行錯誤の段階ですが、できる限り支援していくつもりです。

〈本田頼徳のプロフィール〉

日本ドッジボール協会業務執行理事、総務担当・日本代表担当。小学校6年生の6月に元町サンダーボールズ(札幌市)に入部し、第4回サンスター & オロナミンCカップ全国大会出場、第4回クロネコカップ全国大会第3位入賞。シニアでは2005年より東京選抜に所属、07年よりVegas O3に所属し、現在に至る。また、07年より世田谷区経堂小学校スポーツ教室(ドッジボール)にて指導し、監督を務めている。



www.toto-dream.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

JDBA インフォメーション 協会からのお知らせ

■集合学習④ 実習を受講された皆様への確認

10月24、25日の両日、集合学習④が茨城県笠間市で初めて開催され、32名の方が受講されました。厚く御礼を申し上げます。また、この講習会の開催にあたり、茨城県ドッジボール協会、ならびに笠間市ドッジボール協会の関係者の皆様には多大なるご協力をいただきました。併せて御礼を申し上げます。

集合学習④では8時間の講習の他、10時間分の実習と課題提出が求められています。既に課題の提出を終えた受講者もいますが、まだ実習中の方につきましては、12月25日までに課題の送付を完了してください。期日までに課題の提出が終わらない場合は、再提出を課すことなく不合格の評価となりますのでご注意ください。

■チームサイト・メンバーサイトに機能を追加しました

チームサイト・メンバーサイトでは、JDBA事務局、または所属都道府県協会のお知らせを掲載しています。今回、新機能としてお知らせを投稿した際、登録メールアドレスに通知を行う機能を追加しました。

登録メールアドレスが受信できるかどうか確認し、最新のものに更新してください。

■広報紙掲載チーム募集中！

年2回発行される広報紙では、全国各地のドッジボールチームを紹介します。カテゴリーや戦歴など一切問いません（パパさんチーム・ママさんチームでもOKです）。掲載希望のチームは公式サイトのお問い合わせよりお知らせください。

一般財団法人日本ドッジボール協会

<http://www.dodgeball.or.jp>

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405

TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840



このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。